

日銀神戸 支店長の 視点

別所昌樹氏



日銀神戸支店は、お札の発行や、金融機関や国のお金の受け払いを行うほか、兵庫県の経済動向も調査しています。「短観」、正式には「全国企業短期経済観測調査」という統計を作るほか、神戸支店では独自に、神戸市内のホテル平均稼働率を公表しています。他の機関が作成する統計も、経済・物価情勢の判断に生かしています。

このような統計は注意深く設計され、適正な手続きで作られるため信頼性が高く分析にも適しています。ただ、限界もあります。統計作成にはどうしても時間がかかるため、すぐには入手できません。この限界を補うため日銀は企業に出向いて、売上・受注・生産や設備投資、価格設定、

三位一体で経済の「今」を知る

雇用・賃金などについてお話を伺っています。お忙しい中ご協力いただき、本当に感謝の限りです。

加えて最近では、「オルタナティブデータ」というものが出てきました。社会のデジタル化のおかげで、従来とは異なる情報源や入手経路を通じて利用可能になったデータです。例えば、スマホの位置情報を基にした人流データ、カードの利用を基にした消費データ、求人広告内容を基にした雇用・賃金のデータです。いずれも匿名データですが、魅力の一つは速報性の高さです。活用の試みは10年以上前に始めましたが、広く使うようになったきっかけはコロナ禍でした。経済が刻々と動く中、「今を知る」必要が高まったからです。

地域経済調査への活用はこれからですが、伝統的な経済指標、企業の生の声、オルタナティブデータの三位一体で、兵庫県経済の「今」をより正しく、深く知る未来が来ればと思います。